

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	3570200521		
法人名	社会福祉法人 むべの里		
事業所名	グループホーム芳玉園		
所在地	宇部市大字東須恵丸田3454-2		
自己評価作成日	平成26年9月27日	評価結果市町受理日	平成27年4月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成26年10月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの出来ることを、ご家族の協力のもとにセンター方式を利用したり、担当制を活用して、個人の思いを理解するように努め、「出来ること」の維持に努めている。毎月のカレンダー作りや、壁画作りでの季節感に努め、四季を理解してもらうようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居時には、センター方式のシート(基本情報、家族、生活し、暮らし方、できることやできないこと、わかることやわからないこと)に家族の協力を得て記入され、利用者の生活歴や暮らし方、できることなどを詳細に収集されて、利用者の入居に至るまでのことを知る努力と工夫をしておられる他、入居後は週1回、利用者一人ひとりの状態に合わせた内容のアンケート(思い、暮らし方、日常生活動作等)を作成され、どのように暮らしたいのか、何をしたいのかなどを丁寧に聞き取りされて、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めておられ、「思いやり、目配り、気配り」を持って意向や希望にそった支援に取り組んでおられます。利用者が本人らしく、やりたいことがいつまでもできるように、習慣や希望、得意とされていることにあわせて、活躍できる場面や楽しみごとを多くつくっておられ、利用者のペースにそった、穏やかでゆったりとした生活の流れを大切にされた支援に取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き生きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の会議で確認し合っている。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり、事業所内に掲示している。介護目標の「思いやり、目配り、気配り」と合わせて月1回の職員会議で唱和し、ケアカンファレンス時に話し合って確認して、共有し、理念の実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月1回のふれあい市場には参加し、交流している。	自治会に加入し、地域の清掃作業に職員が参加している。地域の人の往来がある事業所前のフェンスに行事案内を掲示して参加を呼びかけ、地域の人との交流が深まるように取り組んでいる。「子ども110番の家」でもあり、小学生が気軽に立ち寄っている他、建物2階のデイサービス利用者と一緒に、ボランティア（日本舞踊、歌、フラダンス、銭太鼓）で来訪している人と交流している。近所の人と散歩時に挨拶を交わしたり、隣の集会所で月に1回開かれる「ふれあい市場」で野菜の買物を楽しんだり、野菜や花の差し入れがあるなど、地域の人と日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議のお誘いを広げ認知症の理解に繋げている。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	玄関先に掲示し、どのように取り組んだらよいか、各自考え、実施している。	管理者は評価の意義を説明し、職員は理解して月1回の職員会議の中で項目毎に話し合い、職員全員から意見を聞いた後にまとめている。自己評価を通して、職員は理念にそったケアが実践できているかを振り返り、研修の計画や内容の具体的な改善や充実に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告を必ず行い、話し合っている。	年6回開催し、利用者の状況や行事報告、外部評価の報告をして、意見交換をしている。開催日を日曜日にしたり、避難訓練や誕生会等の行事と同日に開催しているなど、多くのメンバーの参加を得るための工夫をしている。参加者と一緒に危険個所の点検を行い、避難経路から段ボール等の資源ごみの収集場所を除くことなど、意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談の出来る関係を保っている。	市担当課とは運営推進会議時の他、電話や直接出向いて情報交換や利用者の生活相談、市のサービス内容等について相談を行い、助言を得るなど協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センターとは電話や直接出向いて利用者の情報を得るなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者に負担の無いよう、センサー設置をして担当防止に気を配っている。	マニュアルがあり、月1回の職員会議や日々のケアを通して職員は身体拘束の内容や弊害について理解して、スピーチロックのない言葉かけの工夫や身体拘束をしないケアに取り組んでいる。。玄関には施錠をしないで、外出したい利用者には職員が見守り、一緒に出かけるなど、気持ちに添ってケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議でも話し合い、防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年は成年後見人制度利用者の方が居られ、全員理解している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を行い、理解に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご希望をうかがったり意見を記入出来るようにしている。	苦情の受付体制や第三者委員、外部機関を明示し、処理手続きを定めて契約時に家族に説明している。家族からの意見は運営推進会議時や行事参加時、面会時、電話等で聞いている他、苦情受付箱の設置や面会簿に要望や意見を記入できるように工夫をしている。居室の安全対策についての相談には説明を行い、個別ケアの要望には直ぐに対応するようにしている。必要時に誰でも利用できる車椅子を1台設置するなど、意見や要望を反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時意見を出せるように努めている。	管理者は月1回の職員会議で直接職員の意見や提案を意見に聞いている他、日々の業務の中でも意見や提案が気軽に言えるような雰囲気づくりをしている。入浴時のシャワーチェアへの活用や夜間の転倒事故を予防するための工夫などの意見をサービス向上に反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年代表者の会議が実施されている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	随時意見を出せるように努めている。 研修の案内も掲示している。	外部研修は職員に情報を提供し、希望に応じて勤務の調整を行い、受講の機会を確保している。受講後は内部研修で復命報告を行い、全職員で共有している。法人研修は、年3回、資格取得に関する研修や新人研修、認知症研修等を実施している。内部研修は、毎月、全員参加の職員会議の中で管理者や職員が講師となって薬の知識や事故防止、感染症予防等を実施している。職員は日々の業務を通して管理者や経験者の指導を得て介護技術の向上に取り組んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流を図っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当制にしてより好く個人を理解するよう努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に3・4か月をめどにセンター方式記入をお願いして、信頼関係作り等に努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療との連携にも努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活していく上での信頼関係を築いていけるように努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との外出等お願いをしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	園に面会に来ていただいている。	家族や親戚の人、兄弟、近所の人、職場の同僚、知人(化粧品店主)などの来訪がある他、電話や暑中見舞い、年賀状、手紙での交流の支援をしている。ドライブで思い出の場所へ出かけている他、家族の協力を得て外食や外泊、寺参り、墓参り、法事や葬式、白寿(本人)の祝宴に出かけるなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように席替えをしたり、利用者同士の会話が増えるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	むべの里特養入所された方とは今も面会に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式利用や、アンケート記入等思いの把握に努めている。	入居時に、センター方式の6つのシート(基本情報、家族、生活史、暮らし方、できることやできないこと、わかることやわからないこと)を活用して本人や家族から情報を収集し思いや意向の把握に努めている。入居後は日々の生活の中での言葉や表情などをケース記録に記録するとともに、毎週1回、個々の状態に応じた独自のアンケート(思い、暮らし方、日常生活動作等)を実施して思いや意向の把握に努めている。困難な場合には、職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族へのセンター方式記入をお願いしたり、利用者との話の中で把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人にあったペースを心掛けている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時話し合い、より良く暮らしていける様に努めている。	計画作成担当者と利用者の担当職員を中心に月1回カンファレンスを開催し、本人、家族の思いや要望、かかりつけ医、看護師等の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。モニタリングを1か月毎に実施し、3か月毎に計画の見直しをしている。状態や要望に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を共有し、見直しにも活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取組めるように努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員さんとの連携が築け、楽しく暮らしていける様に努めている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療が受けられている。	本人や家族の希望を大切にしてかかりつけ医を決めている。協力医療機関は2週間に1回、歯科は月に2回、皮膚科は月に1回の訪問診療がある他、耳鼻科は年に数回、耳垢取りの往診がある。その他の受診は家族の協力を得て支援をしている。往診や受診の結果は面会時や電話で家族と情報交換をして共有している。夜間や緊急時は協力医療機関と連携して対応するなど、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適切な医療が受けられている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携作りが出来るよう努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で話し合い、方針の共有に取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた対応については契約時に他施設への移行も含めて、事業所でできることを家族に説明し、意向の確認をしている。重度化した場合や継続した医療処置が必要になった場合には、早い段階から家族やかかりつけ医、職員等関係者で話し合い、方針を共有して支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハットの活用や、マニュアルを随時取り出せるようにしている。	発生した場合は直後に事故、ヒヤリハット報告書に発生状況や予防策を記録し、全職員に回覧して周知し、月1回の職員会議で再度話し合い、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。緊急時マニュアルがあり、職員は消防署の主催する救急救命法やAEDの使用方法的研修を自主的に受講し、誤薬防止や感染症等についての研修を実施しているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	会議でのイメージトレーニングや、マニュアルを随時取り出せるようにしている。	消防署の協力を得て年1回、併設の法人施設と合同で昼間の火災を想定した避難訓練、避難経路の確認、通報訓練、消火訓練を利用者と一緒に実施している他、毎月、事業所内で出火場所を変えて避難訓練を利用者と一緒に実施している。緊急時に備えて非常用食品の備蓄をしている。合同訓練に運営推進会議のメンバーの参加はあるが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しながら、理解しやすい声かけを行っている。	毎月の職員会議で人格の尊重とプライバシーの確保について学び、職員は理解している。利用者を「人生の先輩として」尊敬の念を持ち、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	アンケート記入や、個人個人に合った声かけで思いを聞き取るよう努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペースに合わせて支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴用意をお願いして、着たいものを準備して頂いている。 ご家族に任せられ、その方にあった身だしなみの用意をしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や片付けを一緒に行っている。	昼食と夕食は法人からの配食を利用し、朝食と週に一度の昼食、夕食は事業所で調理している。利用者は盛り付けや台拭き、箸を置く、お茶くみ、食器を洗う、食器を拭く、下膳などを職員と一緒にしている他、週に一度の昼食、夕食づくりでは献立づくりからスーパーでの買物、調理(野菜の下ごしらえ、胡瓜の酢の物、味噌汁、煮しめ、炒り卵など)まで一人ひとりのできることをしている。利用者と職員は同じテーブルで会話を弾ませながら一緒に食事を摂っている。利用者の状態に合わせて刻みやとろみなど食べやすいように工夫をしている。好みのお茶(緑茶、コーヒー、紅茶、ココアなど)を飲んだり、おやつづくり(ホットケーキ、お好み焼き)や誕生日のケーキ、出前を取る(寿司やランチ)、家族の協力を得て誕生日の外出など食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や好みにあった物を提供するように努めている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後実施し、毎月1回歯科点検をお願いしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを理解し、声かけ・誘導を行っている。	排泄チェック表を活用して利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりに合った言葉かけや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立支援をしている。言葉かけや見守りで4人が自立している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体質も考慮し、飲食物での工夫や運動に努めている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の希望も取り入れるよう努めている。	入浴は15時から17時30分まで可能で、希望すれば毎日でも入浴できる。2人での入浴や入浴剤を入れたり、湯加減など一人ひとりの希望に応じて、くつろいだ入浴になるように支援している。入浴したくない人には無理強いないで時間や職員を代えるなどの対応をしている。状態に合わせてシャワーチェアーの活用や清拭、シャワー、足浴、部分浴など個々に応じた入浴支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心地良く休めるように努めている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解し支援している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式利用や、アンケート記入等思いの把握に努めて、楽しみごとの支援にと努めている。	テレビ視聴、新聞を読む、折り紙、ぬり絵、習字、ボール蹴り、山口弁ラジオ体操、脳トレ(計算)、四文字熟語、絵合わせ、パズル、なぞなど、カレンダーづくり、紙細工、新聞紙でゴミ箱づくり、タオルを鉄で切る、雑巾を縫う、洗濯物たたみ、おしぼりたたみ、掃除、ゴミ出し、食事の準備、調理、後片付け、地藏参りなど個々に応じた楽しみごとや活躍できる場面を多くつくり、張り合いや喜びのある日々がすごせるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの思いに合わせて支援している。ご家族との外出もお願いしている。	近隣の散歩や買物、季節の花見(竜王山の桜、江汐公園のバラ、常盤公園のコスモス)、ドライブ(緑地公園、焼野海岸、サンパーク)、地蔵祭り、八幡様、西高の園芸教室に出かけている他、家族の協力を得て外泊、外食、買物、法事への参加、墓参りなど、一人ひとりの希望にそって出かけられるように支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に行っている買い物での支払いをお願いしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月のカレンダー作りや壁画での季節感を把握して頂き、席替えやソファのカバー交換等居心地良く過ごせるように努めている。	リビングは広く、照明に配慮した落ち着いた空間で、壁面いっぱいを利用者の制作した紙細工のオブジェが飾っており、玄関の生花を生けて季節を感じることができる。テレビの前には大きなソファがあり、ゆったりとくつろげるように工夫している。居室や浴室、トイレに続く廊下は広く、手すりを設置し、安全や温度、湿度、換気に配慮し居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座っての会話やテレビ視聴等思い思いに過ごせるように努めている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全第1だが、使い慣れた物や写真が置いてあり、居心地良く過ごせるように努めている。	ベッド、箆笥、衣装掛け、テレビなど使い慣れた物を持ち込み、家族の写真や自作のカレンダーを飾って居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに合った空間作りを心掛けている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム芳玉園

作成日： 平成 27年 4月 18日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	職員全員が実践力を身に着けるための応急手当や初期対応の定期的訓練の実施	職員全員が緊急時の初期対応を身に付ける	月1回の会議時に、デイサービスの看護師さんに緊急時の初期対応の勉強会をしてもらう。 4・5月骨折時の対応 6・7月血圧について 8・9月熱中症について 10・11月嘔吐下痢について 12・1月食中毒について 2・3月意識障害について	1年
2	36	地域との協力体制の構築	地域の皆様と馴染みの顔になれるように	避難訓練の際に、近隣住民に対しても参加を呼びかける。 駅の掃除を入居者様と一緒に継続して行うことで地域の皆様と関わり合いを持つようにする。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。